

優秀賞



設計担当者

古谷俊一

一級建築士事務所古谷デザイン建築設計事務所
東京建築士会

長屋(4戸)及び工場(作業所)／神奈川県川崎市

スイシャハウス・スイシャオフィス

構造 | 木造在来軸組工法

階数 | 地上2階

敷地面積 | 872.89㎡

建築面積 | 236.55㎡

延べ面積 | 365.71㎡

竣工 | 令和3年2月17日



1

1 外観。既存土蔵蔵のポリウムを頼りに賃貸住宅と農作業小屋のポリウムが並列する

選評

本作品は、JR南武線溝の口駅(東急田園都市線武蔵溝ノ口駅)から程近い場所にあり、農家の母屋を建て替えた3棟の建物(2棟が4戸の賃貸住宅、1棟が家主の使う附属屋)と、土蔵をリノベーションした貸事務所棟からなる。広い敷地内には、他に家主の住宅(母屋の離れとしてつくったもの)がある。スイシャハウス・スイシャオフィスの名は、敷地内にもと水車小屋があったことに由来する。

本作品の最大の特徴は、農家の時代の屋敷構えを継承している点である。郊外の農家を複数の住戸に転用する場合、小規模な住宅が並び豊かな緑が失われる形となりやすいが、敷地内の緑をそのまま残し、それを家主が管理することで、賃貸住宅に新たに居住する人々が豊かな緑を借景しながら暮らせる形としている。

本作品のもうひとつの特徴は、新たに建てる住宅を小規模な賃貸住宅の集合体としたことである。これにより、計画的には住宅が核家族化した現代の住まい手にあった形になっているし、形態的には残した土蔵と同スケールの建物群(2棟の賃貸住宅と附属屋の計3棟)が建ち並ぶ構成となった。なお、3棟の建物は、屋根のつくり蔵に使われている「置き屋根工法」を取り入れており、それが室内の環境性能に貢献していることも特筆に値する。

土蔵をリノベーションしてオフィスとした点も、特徴ある面白い試みである。郊外住宅地にオフィスを構える需要は、オンラインでのテレワークが定着してきた現在、着実に増加しつつある。リノベーションによって、そうした新しい時代のユーザーが借りたくなる建物に土蔵が甦っている。

本作品のゆとりある配置は、家主の理解が

あってはじめて実現できたものといえるが、豊富な緑と共存して賃貸の住宅やオフィスが存在する形は、21世紀における大都市郊外の新しい住まいや暮らしの在り方を示唆しているともいえる。そうした提案を実現したことは高く評価でき、優秀賞にふさわしい作品と判断した。

なお、連合会の作品賞は分野別の申請となっており、本作品の場合、居住生活空間系とリノベーションのどちらでも応募できたと思う。本作品は、居住生活系で応募したことが功を奏したと思うが、評者が今回審査に訪れた作品のなかには、他にも新築とリノベーションを組み合わせたものがあり、分野が違えばと思うものがあつた。それだけリノベーションが市民権を得た証拠ともいえるが、応募者にも審査者にも難儀な時代の変わり目を実感した次第である。

(後藤 治)



2



3



4



5



6



7



1階平面配置図



8

- 2 住戸キッチンからテラスをみる。植栽に囲まれたテラスと住戸空間を一体的に使うことができる
- 3 ルーフバルコニー
- 4 住戸2階。可動収納棚仕器と引き戸で空間を自在に使い分ける。環境の教授とプライバシーを両立したルーフバルコニーが接する
- 5 温室フレームから差し込む太陽光がダイニングテラススペースを一体化する
- 6 農作業小屋の作業スペースを休憩室側からみる。奥は既存庭園
- 7 土地オーナーの運営するお隣り教室が農作業小屋の一角に計画されている
- 8 全景俯瞰。ボリュームが並列する風景